

▼東海

カラオケ部会 愈々スタート

阪田 晃(THK)

きっかけは日本民放クラブ中村こずえ理事の、我が東海民放クラブ加藤理事への一言でした。

「関東民放クラブでのカラオケ部はたいへん盛況で、毎回、課題歌手を決めてカラオケを楽しんでいます。東海もどうですか」

これに我がクラブの山中会長も前向きに反応し、すぐさま6月27日から、毎月最終の火曜日の午後、開催することとなりました。

THKの近藤さんの尽力で、場所は昔馴染の「ラウンジ渡邊」、特別の料金で、最高の音響装置、おつまみ付きフリードリンクは、我々にはとてもありがたい環境です。

第1回は女性1人を含む7人が参加、『石狩挽歌』『夢一夜』『五番街のマリー』『怪傑ハリマオ』など昭和の名曲が50曲以上披露され、あつという間に4時間が過ぎ去りました。メンバーの中には最近連れ合いを亡くした方が2人、手術明けが

2人、腰痛持ち多数と、それぞれ事情を抱えた出発となりました。が、回を重ねるうちに新人も2人増え、9月30日で第4回を迎えるました。

今回気づいたのは、皆さん1回目と比べ、杖もつかず、血色が良くなり、歌声に張りがあり、声量も豊かになったということ。まさにカラオケは大きな声を出して歌うことで、心肺機能を高めストレス解消、ボケ防止、認知症予防に役立つことを認識させられました。

メンバーは65歳から92歳まで9人、昭和40年代から50年代にかけてのカラオケ全盛時代を過ごし、コロナの3年間も細々と歌い続けた世代の歌は多種多様。

演歌、フォーク、ロック、ポピュラーなど、それぞれの思い出とともに『公園の手品師』あなたに会えてよかつた』『中山峠』『わかれ酒』『東京』『みだれ髪』など約50曲を

今回も歌い切りました。
年末、12月30日(火)には忘年カラオケ大会を予定しております。「第1回東海版紅白歌合戦！」がいよいよ始まります。

